

# 日台稲門会

ニュースレター-2024年秋号 (9月発行)



発行所：日台稲門会  
会報・NL編集委員会  
office@nittai-toumon.com  
発行・編集責任者： 根本 宏児



新宿御苑 旧御涼亭 (通称 臺灣閣。1927年、昭和天皇のご成婚を祝して台湾在住日本人から贈られた)

## ご挨拶 根本宏児 会長

皆さん、今年の夏は例年以上にかなり厳しい暑さになっていましたが、お元気にお過ごしのことと思います。パリオリンピックでは、早稲田出身者の活躍する姿も見ることができ、寝不足の日も多かったのではと推察しております。

また、日頃より日台稲門会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年も日台稲門会の秋の行事が始まる時期となりました。10月には稲門祭での秋季講演会や、三台会との対抗懇親会であるゴルフ早慶戦を計画しており、また11月には台北で台湾校友会との懇親会を予定しております。是非会員の皆様には積極的にご参加頂き、交流の場を広げて頂きたいと考えておりますので、引き続き当会の活動に対し、ご支援の程よろしく願いいたします。



## 目次

・謝長廷代表（台北駐日経済文化代表処）離日、李逸洋新代表が赴任	P 2
・傅馨儀（Elisa）さん（前日台稲門会幹事）、公正委員会委員に選出	2
・パリオリンピック、台湾メダル7個（金2、銅5）	2
・早稲田、東京六大学野球 7 季ぶりの優勝	2
・台北・建国高マーチングバンド、早大応援部と交流 互いにパフォーマンス披露	3
・台湾川柳会 30 周年記念句会（江畑哲男さん）	3
・日本台湾交流協会台北事務所 泉裕泰前代表 講演	4
・おすすめの台湾映画（雪川睦美さん（台湾エンタメ迷））	5
・金美齡さんの『話の肖像画』（8月）	5
・ケーススタディー ①中国国民党、②民主進歩党	6
・TSMC 熊本工場周辺見学記（渡邊義典さん（副会長））	6
・台湾日より 七夕情人節（Elisa 傅馨儀）	6
・最近の情勢	7
・新入会者紹介（広谷光紗）	7
・訃報（斎藤征二さん、黄文雄さん）	7
・お知らせ ①2024 年 秋季講演会のお知らせ ②Facebook グループ「日台稲門会」ご利用 のお勧め	8
・編集後記	9

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### ■謝長廷代表（台北駐日経済文化代表処）離日、李逸洋新代表が着任

2016 年以來 8 年間、謝代表からは台湾・日本両国がお互いに助けあう『善の循環』という精神を教わりました。日本から台湾にワクチンを輸送するときに、代表が羽田空港まで出かけて出発便（JAL）に深々と頭を下げたのを見て目頭が熱くなりました。また日本政府が応対できないというのなら制限の比較的緩やかな地方との接触を深めようと積極的に『地方自治体外交』を展開。なんと全県平均 3 回訪問したとか。地方とのパイプもしっかり築かれたと思います。大変ありがとうございました。なお、後任の李逸洋代表は、9 月 9 日に着任されました。



李逸洋 新代表  
写真：代表処

### ■傅馨儀（Elisa）さん（前日台稲門会幹事）、公正委員会委員に選出

7 月 20 日開催された民主進歩党全国代表大会で、傅馨儀（Elisa）さん（前日台稲門会幹事）が頼清徳党主席より公正委員会（腐敗防止委員会）委員（11 名のうちの一人）に推挙されて、承認されました。Elisa さん、がんばって下さい。



（写真：自由時報）

### ■パリオリンピック、台湾メダル7個（金2、銅5）

パリオリンピックでの台湾のメダル獲得は金 2（ボクシング女子 57 キロ級の林郁婷、バドミントン男子ダブルスの王齊麟・李洋）と銅 5（ボクシング女子 60 キロ級の呉詩儀、同 66 キロ級の陳念琴。男子体操鉄棒の唐嘉鴻。男子クレール・スキートの李孟遠。重量挙げ女子 59 キロ級の郭婞淳）の合計 7 で国別 35 位であった。ボクシングでは性別騒動の渦中にいた林郁婷だったが、東京オリンピック時には初戦敗退だったことを考えると、（騒動はさておき）頑張ったと思います。（東京大会では台湾は金 2、銀 4、銅 6 合計 12 で 34 位）



左：選手団  
（総統府 flickr より引用）

右：ボクシング女子  
57 キロ級で金メダル  
林郁婷選手（中央）  
（中央廣播電臺より引用）



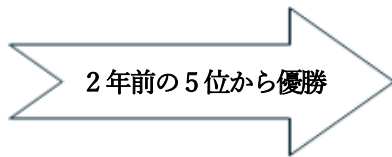
### ■早稲田、東京六大学野球 7 季ぶりの優勝

私の学生時代、早稲田は、江川が法政に入ったばかりの春に優勝した。それ以降、順位は 1、2 位は法政か明治、3、4 位は早稲田か慶応、5 位は立教、そして 6 位は東大と決まっていた。8 季連続優勝なし。自分の時には優勝は味わえないのだ

ろうなと思っていたが、江川がいなくなった（卒業した）年（1978年）の秋に優勝してしまった。試合後、神宮球場から戸山校舎まで最初で最後の優勝パレードに参加した。ごわごわのトイレットペーパーを沿道のビルから紙吹雪の紙代わり投げる人もいた。優勝はそれだけだったが、在学中優勝の喜びを味わえてよかったと思った。2022年春に旧友と43年ぶりに早慶戦に行った。その時は、東大に2引き分け2勝でどうにか5位を確定させていた。慶応にも負け越したが、定位置がない現在の方が健全かもとも思った。（橋本紀明）

・早慶戦で思い出深いのは、高等学院（16才）の1969年秋。早稲田からなんとドラフトで上位指名された3名（谷沢、荒川、小坂）が六大学では優勝出来なかったため、ベンチ上に来て謝罪したのです。中心は谷沢でした。私は訳の分からないまま「早稲田は凄い！プロに3人行くんだだけで六大学で優勝出来ないの？」かと。早慶戦思い出です。（小川英郎）  
（矢沢氏（現在早稲田大学客員教授）は、球団経営を目指して2000年代初期に早稲田大学大学院アジア太平洋研究科へ入学。その後のプロスポーツ選手の大学院入学の先駆けとなった。）

・30歳のころ、私は「ホラーズ」という放送業界、出版業界、大学の教員、自営業など、雑多な職業の人間が集まっている一風変わった軟式草野球チームに属していた。その中に法政大学の硬式野球のX氏がいた。あまり大差をつけられた場合のみ、助っ人として登板した。Xさんは、手首だけでちょいと投げると球速130キロ超、少し腕の振りを速くすると140キロ超、全身を使って投げると150キロ超という、草野球ではほぼ見られない速球を投げた。彼も1年後輩の江川がいなければ、法政の大投手と言われたはずだった。選手の中でも江川卓の陰で泣いた人はたくさんいた。それほど江川は怪物だった。（梶山憲一）



早大7季ぶり優勝

悔し涙の春 2022年

喜びの春 2024年(写真:東京新聞)

■台北・建国高マーチングバンド、早大応援部と交流 互いにパフォーマンス披露 (出所:フォーカス台湾 2024/7/17)  
台北市立建国高校連合マーチングバンド(建国高の生徒中心の10校から57名参加)が7月15日から日本に滞在し、16日には早稲田大学大隈記念講堂を訪問。吹奏楽団を擁する同大応援部と互いにパフォーマンスを披露するなどして親交を深めた。その後、強豪として知られる東海大学付属高輪台高校(港区)や東京農業大学第二高校(高崎市)の吹奏楽部などとも交流した。



(大隈講堂で 建国高マーチングバンド)  
(上記2写真:中央通信社)



(大隈講堂で 早稲田大学応援部)

■台湾川柳会 30周年記念句会 (江畑哲男さん)

日台稲門会会員の江畑哲男さん(川柳会代表、一般社団法人・全日本川柳協会副理事長)より「台湾川柳会 30周年記念台湾川柳会創立 30周年記念句会の寄稿がありました。」

去る3月3日(日)、台湾川柳会の創立30周年記念句会が、賑々しく楽しく開催された。会場はいつもの国王大飯店(台北市)。参加者総勢60名(日本側42名、台湾側18名)。日本側では、小島蘭幸全日本川柳協会理事長をはじめ、江畑哲男 副理事長、雫石隆子常務理事ら、日川柳の幹部の姿もあった。岡山県からはナント20人を超える参加者がツアーを組んで来台した。



(写真:東京新聞)

## 1.台湾川柳会創立 30 周年記念句会の意義

### ①海外に於ける川柳の記念行事

台湾が日本の統治下から離れて、約 80 年の歳月が流れ、令和の今日でも日本の伝統文芸が詠み継がれている。

### ②台湾川柳会は日本の川柳界以上に高齢化

台湾の日本語世代は、大正生まれ~昭和~ケタ。台湾川柳会第二代会長李琢玉氏（2005 年逝去）曰く、《どうせ、滅びゆく文芸さ。私たちの世代で終わるのだから。》しかし、琢玉氏没後もなお、台湾川柳会の活動は活発に続いている。

### ③国際交流

台湾川柳会第四代表の杜青春氏の活躍は、めざましい限りだ。日本各地の川柳会を飛び回り、全日本川柳協会をはじめとする全国大会にもこまめに顔を出している。いまや、杜青春の名を知らない川柳人はいない。こうした功績が積み重なって、令和元年(2019)に全日本川柳協会より杜青春氏は特別表彰を受けた。台湾の仲間が喜び、日本の川柳人もこぞってお祝いした。

## 2.台湾川柳会から学ぶこと

### ①会員の多彩な顔ぶれ

台湾川柳会の会員はじつに多彩である。台湾人もいれば、日本人もいる。同じ台湾人でも、日本語世代と戦後世代に分かれる。在台湾の日本人会員でも現地在住者もいれば、一時滞在の方もおられる。在日本の川柳仲間も数多く台湾川柳会の会員になっている。

### ②日本語と日本文化を楽しむ

川柳を通じて日本語や日本文化を楽しもうという雰囲気はいつも感じられる。日本の流行語が話題になったり、逆に台湾文化を日本人が教わることもある。最近の会報を見ても、配慮が到るところに感じられる。日台双方の読者への気遣いがふんだんに盛り込まれている。「青紅が擘圓仔(ソライナア)の冬至かな」(市川春樹)。台湾川柳会の解説は《青=台湾最大野党中国国民党のイメージカラー、赤=中国共産党、擘圓仔=団子をこねる、つまり談合の比喻。台湾の総統選挙に向け、与党民進党に勝つため、共産党は親中派の国民党に色々と戦略指導をしているらしい。読者にもわかりやすくする姿勢に驚かされるばかりである。台湾の会報は、柳論こそないが、トピックは多い。コレは?という作品には背景や解説が施される。私たちが台湾から学ぶべきことは多い。

## 3.最近の動き

今年第一回台湾川柳大賞が開催された。それ以外にも選句の小冊子刊行を計画や、『跟我學日語』という日本語学習誌に選者各位の総評を掲載も計画中。旺盛な広報活動を見ると、もはや本家日本をはるかに凌駕しているように思えてくる。私たちは台湾から学ぶ必要があるのではないかと

台湾 30 周年は日台双方にとっての慶事であった。喜ばしいニュースはこれからも続くであろうと確信している。日台交流の絆を、双方の川柳人の力を合わせて、今後とも前に進めてゆきたいものである。



[台湾川柳会 30 周年記念句会とその後の活動 江畑 哲男 \(全日本川柳協会副理事長\) | 日本李登輝友の会 愛知県支部 \(ritouki-aichi.com\)](http://ritouki-aichi.com) スマホでご覧になる場合は、右上の QR コードからどうぞ

## ■泉裕泰前代表 (大使) 講演

2024 年 6 月 8 日 (土) に早稲田大学大隈記念タワー (26 号館) 多目的ホールにて実施された日台稲門会第 28 期総会后、泉裕泰(いずみ ひろやす)前日本台湾交流協会台北事務所代表による基調講演が開かれた。演題は「頼清徳新政権と日台関係」だった。当日は、最近の台湾について多数の参加者からの質問があり、前代表は質問に対して一つ一つ丁寧に回答されていた。なお、前代表が新聞に寄稿された記事を紹介し(下記 URL か右下 QR をご参照ください)。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/333996> 出所: 東京新聞

上記新聞 QR コード



## ■雪川陸美さん（台湾エンタメ迷）のおすすめの台湾映画

### ★『オールド・フォックス 11歳の選択』

あらすじ： 台北郊外に父と二人で暮らすリャオジエ。コツコツと儉約しながら、いつか、自分たちの家と店を手に入れることを夢見ている。ある日、リャオジエは“老獺なキツネ”と呼ばれる地主・シャと出会う。優しく誠実な父とは真逆で、生き抜くためには他人なんか関係ないと言い放つシャ。バブルでどんどん不動産の価格が高騰し、父子の夢が遠のいていくのを目の当たりにして、リャオジエの心は揺らぎ始める。図らずも、人生の選択を迫られたリャオジエが選び取った道とは…!？（出所：Filmarks 映画）



感想： 本作は台湾バブル期を背景に「家を買いたい少年」と周りを取り巻く大人たちの物語。バブル期の中「勝ち組」となったシャと「良い人」であるがために取り残されてしまうリャオジエの父タイライ、その二人を見つめる少年ジエの揺らぎが絶妙なバランスで描かれています。また少年に自分を重ね合わせるシャの一種悪魔的に感じられる感情の中に宿る一抹の孤独感も見ものでした。果たしてジエがどういう未来を選択するのかはぜひ作品でご確認いただきたいです。作中ではいくつかのエピソードが散見されます（実際に起きた「鴻源案」をモデルにした事件も描かれています）。それぞれにははっきり結論が出るわけではなく、消化不良に感じる方もいるかもしれませんが、私にはそれが「台湾映画らしさ」に感じられ、心地よい後味を味わえました。

### ★日台合作映画『青春18×2 君へと続く道』

あらすじ： 始まりは18年前の台湾。カラオケ店でバイトする高校生・ジミー（シュー・グアンハン）は、日本から来たバックパッカー・アミ（清原果耶）と出会う。天真爛漫な彼女と過ごすうち、恋心を抱いていくジミー。しかし、突然アミが帰国することに。意気消沈するジミーに、アミはある約束を提案する。時が経ち、現在。人生につまずき故郷に戻ってきたジミーは、かつてアミから届いた絵ハガキを再び手に取る。初恋の記憶がよみがえり、あの日の約束を果たそうと彼女が生まれ育った日本への旅を決意するジミー。東京から鎌倉・長野・新潟・そしてアミの故郷・福島へと向かう。鈍行列車に揺られ、一期一会の出会いを繰り返しながら、ジミーはアミとのひと夏の日に想いを馳せる。たどり着いた先で、ジミーが知った18年前のアミの本当の想いとは。（出所：映画.com）



感想： 本作の監督は日本人ですがおじい様が台南の方だそうで、18年前のシーンは台南を舞台としています。18年前の時代がいつ頃かははっきりと分かりませんが、私自身が高雄に語学留学していた時期の少し前かなと思われます。五月天やモー娘、スラムダンクなど、当時の台湾の若者文化が映画の中であふれており、とても懐かしく感じました。ほかにも映画館やカラオケ店など懐かしいポイントは数多くあるのですが、すべて語ると長くなりそうなので割愛いたします。本作は俳優陣も豪華ながら、何よりもシュー・グアンハンの演技分けが素晴らしかったと思います。特に日本語のしゃべり方。スラムダンクが好きで覚えた、18歳のたどたどしく少し照れも入った日本語の話し方と、36歳の仕事で日本とも取引がある社会人の男性としての日本語の話し方。観終わった後によくよく考えると外国語の話し方の演技分けは非常に難しいことに気づかされました。ぜひ彼の演技力にも注目して観ていただきたい作品です。

## ■金美齢さんの『話の肖像画』（8月）（出所：産経新聞）

われらが金美齢さんが、産経の【話の肖像画】8月に登場した。（金さんは）まだ中華民国国籍だった当時、日本人が言えない正論をズバズバ言っているのを聴いていて気持ちよかった。特に8月15日に靖国神社で行った演説（下記URL）は、今聞いても心地良い。に対して未だに「好きだ」と（外交的に）堂々と言えない現状を変えてほしいと願うのは私だけではないであろう。話の肖像画26話には、（1971年の中華民国の国連脱退に対して）『大陸はもうとっくに中国で、台湾という片隅の小さな島の上に中華民国という大きなものを乗っているのは、どうみてもフェイク』と思った。28話では、陳水扁総統時に中華民国国策顧問になったが、嫌がらせの弾丸入り封書が送られてきたときに、ビビっていたら女がすたるとして『ありがたくいただきますよ』と言ったとか。しかし、馬英九政権になった時に、ずっと台湾独立運動に従事してきた人が、再び日本人となる決意をするときの心境を察するとなんとも言えない気分になった。話の肖像画の内容は、『日本よ、台湾よ』（周英明・金美齢著 扶桑社 2001年1月刊）にも載っているが、台湾民主主義を陰でささえた先人（周さん）の苦勞もひしひしと感ずることができる。一読に値する本である。

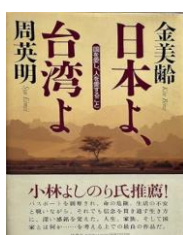
[https://www.sankei.com/article/20240801-IMM7D7Y6QZIBKFKFYVLMBUIAVJI/?outputType=theme\\_portrait](https://www.sankei.com/article/20240801-IMM7D7Y6QZIBKFKFYVLMBUIAVJI/?outputType=theme_portrait)

靖国神社での演説『日本よ目を覚ませ！』（1996） <https://www.youtube.com/watch?v=82kgL8NB1ZQ>

演説QRコード



三村前会長、何元幹事と



（2001年1月、扶桑社）



会員の方と

## ■ケーススタディー ①中国国民党、②民主進歩党

6月、電車内に東京女子大学のPR広告がたくさん貼られていることに気づいた。課題「地方出身者が地方に戻りたくなるような地方活性化のアイデアを考えてください」と。まるでビジネススクールのようなものである。これを台湾に当てはめてみた。①課題『2000年以降総統選挙の支持者数は、国民党が民進党より多数と言われているにもかかわらず、内部の省籍問題から内部対立へと発展してしまい、総統席を民進党に奪われることがあった。もし、あなたが、中国国民党主席ならこの問題をいかに解決するか？会報23号の林森北郎氏と李明峻先生の記事を参考にしながら答えよ』。また②課題『立法府の議席数で第三勢力の動きによっては政権与党(民進党)も議案も通すことができないが、このねじれ現象をどう解決するか？同会報の小笠原先生、斎藤征二氏の記事を参考して答えよ』。

## ■渡邊義典さん(副会長)のTSMC熊本工場周辺見学記

私の本籍地である熊本の田舎へ数十年ぶりに墓参りに行き、途中でTSMCの熊本工場の周辺を巡ってきました。熊本工場は今年完成したばかりですから、真新しく、熊本県菊陽町の農業地帯の真ん中に、白亜の、IT工場特有の、窓のない巨大な建物が威容を誇っていました。建屋の規模からすると、台南科学工業園区(サイエンスパーク)にある、TSMCの最新工場群とも引けを取らない大きさではないか？と思いました。

熊本工場は正門と建屋の壁には「JASM」という会社名の大きなプレートがつけられていましたが、裏門(搬入入り口)には「Fab 23」というプレートがあり、これがTSMCの23番目の工場であるということがわかります。

TSMCは世界最大の半導体メーカーで、最先端のロジック半導体の製造では世界の96%のシェアを持つといわれています。科学工業園区(サイエンスパーク)は、工業団地全体が保税地区となっており、ここへの設備や資材、原材料の搬入は無税(保税)扱いとなっています。保税区内で製造された製品は大部分が直接輸出されますから、結局、保税扱いのまま一気通貫で輸入から出荷まで処理されることになります。更に工業区内の工場には、設備投資の加速度償却が認められていますので、手厚い産業育成策がとられています。このようなインセンティブが全くない日本でTSMCはどうやって競争力を発揮するのか？いろいろな疑問がわいてきました。TSMCの熊本工場で生産するのは世界最先端の半導体ではなく、はるか昔に開発された旧世代の半導体です。日本政府が巨額な補助金を出してまで、そんな陳腐化した旧世代の半導体工場を誘致してどうするのだ！という反対意見もかなりあったのですが、実は今、世界で最も需要が大きくて供給が間に合っていないのは、熊本工場で生産する旧世代の半導体だといわれています。付加価値の高い最先端の半導体(しかし日本では最先端半導体を使用する産業がまだ育っていない)でなくても最も需要量が必要な半導体を生産するのは意義のあることだと思います。

完成直後のJASMの隣接地では第二工場の建設が始まっていました。のみならず、周辺には半導体関連の様々な会社の工場建設がラッシュ状態です。熊本県知事は8月下旬に台湾のTSMC本社を訪問して、「第三工場も熊本に誘致したい」とトップセールスを実施しました。TSMCが熊本に工場建設を決定した要因の一つは、熊本県のこの地域の豊富な地下水が利用できることが一番大きな動機だといわれています。半導体工場は膨大な量の水を必要とします。半導体アイランドと言われる台湾では水の供給が限界となっており、これ以上の大工場の建設はむづかしいといわれています。TSMCの大工場が二つになったら、もともとの熊本のメイン産業である農業や畜産業への給水に影響が出ることは必至といわれています。

TSMCの最寄り駅は、熊本と大分を結ぶ豊肥本線の無人駅、原水駅です。原水駅の一つ熊本よりの駅が「三里木」駅です。やはり無人駅ですが、私が小学校1年(昭和22年)の遠足は、学校から一里ある行程を三里木駅まで汽車を見に行くことでした。終戦直後の豊肥線は汽車も1日に数本しかないのので、先生が汽車の到着時間から逆算して、小学1年生の足で必要とする時間を割り出して学校を出発しました。当時は運動靴などありませんから、全員が草履か裸足でした。一里歩いて駅のホームで弁当を食べ始めたら、はるかかなたから蒸気機関車が見えてきて、私たちは「汽車だ！汽車だ！」と興奮したことを今も鮮明に覚えています。今回懐かしい三里木駅も見してきました。ホームは昔のままでした！無人駅と、のどかな水田や畑、その中のTSMCの白亜の巨大工場の景観はなかなかの「みもの」でした！

## ■Elisa 傳馨儀の台湾だより 七夕情人節

皆さん、こんにちは。台湾のElisaです。今日は、台湾のバレンタインデー(七夕情人節)について紹介します。日本のバレンタインデーと台湾の七夕情人節は、どちらも恋人同士のための特別な日ですが、その由来や風習、贈り物には違いがございます。

まず、日本のバレンタインデーは毎年2月14日に行われます。一方、台湾の若者も日本と同じく西洋のバレンタインデーを祝いますが、伝統的な台湾の七夕情人節は旧暦の7月7日に祝われるため、西暦では通常8月にあたります。このように、2つの行事は全く異なる季節に位置しております。

次に、西洋のバレンタインデーの由来は諸説ありますが、2月14日のバレンタインデーは、最も一般的な説では、ローマ帝国時代の聖バレンタインに由来します。彼は愛する人々のために結婚を秘密裏に執り行っていたため、処刑されました。これがきっかけで、彼の命日にあたる2月14日が愛を伝える日として広まったと言われております。一方、台湾の七夕情人節は、中国の古代伝説に基づいております。天の川を隔てた織姫と彦星が、1年に一度だけ再会できる日が七夕であり、その再会を祝う日として台湾では恋人たちの記念日とされております。

風習についても異なります。日本では、バレンタインデーに女性が男性にチョコレートを贈ることが一般的です。特に、義理チョコや友チョコ、本命チョコといった区別があり、贈る相手によってチョコレートの種類や意味合いが異なります。また、ホワイトデーというお返しの日が3月14日に設定されており、男性が女性に感謝の気持ちを込めた贈り物を返す風習がございます。これに対して、台湾の七夕情人節では、恋人同士が互いに贈り物をし合うのが一般的です。贈り物は花束やアクセサリなど、よりロマンチックなものが好まれます。また、七夕の夜には願い事を短冊に書いて吊るす習慣もあり、恋人たちが一緒に願いをかけることで絆を深めます。台湾の七夕情人節では、花束やジュエリーなどが定番で、「七夕快樂！」

という祝福の言葉が交わされます。改めて、♥ **Happy Valentine's Day** ♥  
わたくしはこれからも一層努力し、ご指導を胸に刻み、世界のどこにいても精進してまいります。  
今後、東京や台湾、そして世界のどこかで先輩方々と再びお会いできることを楽しみにしております。  
末筆ながら、日台稲門会の先輩方々並びにご家族の皆様が 8 月の夏季期間を心穏やかに過ごされるようお祈り申し上げます。どうぞ楽しく幸せなお盆休みをお過ごしください。(Elisa)

## ■最近の情勢

### ・台湾民衆党の柯文哲氏、選挙補助金不正利用

台湾立法院で第三野党としてキャスティングポストを握る台湾民衆党の柯文哲氏（主席・党首）が、総統選の得票に応じて支給される選挙補助金（総統選では 26.46% を獲得）を利用して 4300 万元（約 2 億円）で不動産を購入していたことが判明。政治改革を求めて柯氏に投票した支持者からは失望感が高く、民進党系シンクタンクでは 2026 年の統一地方選でも首長ポストをとるのは難しいとしている。(8/30 産経新聞)

### ・日本の店頭からお米が消える

最近スーパーに行かれた方はご存知だと思いますが、7 月頃からスーパーの店頭で米が少なくなり、8 月にはほとんどないという状態になった。当初、昨夏の記録的な猛暑のためだと思われたが、政府は、在庫は十分あるとしていた。原因は 1973 年のオイルショック時のトイレットペーパー騒動と同じで、地震や台風被害を心配した流言蜚語（うわさ）による各家庭の買い占めも影響しているようです。1994 年には前年の冷夏の影響で、会社の食堂にタイ産の長粒米（インデカ米）が混じり始めた。長粒米自体は不味くはないのだが、独特の匂いのため、混ぜると日本食には合わなかった。当時、台湾出張時には毎回、蓬萊米や越光米を持ち帰ったことを思い出す。ただ、せっかく輸入したタイ米が不評だったため、その後、家畜のえさとしたとして問題化されたが、それから数年後、タイでは短粒米（ジャポニカ米）を生産するようになった。

### ・台風の思い出

30 年程前台湾では台風の直撃を受けることは日本より少なかったが、それでも台風一過の翌朝、街に出るとあちこちに直径 1 m のパラボリアンテナが落ちていることが多かった。当時、テレビはチャンネルが少ないことと内容が面白くないため、有線放送が一般的だったが、海外の放送を見たい人はパラボリアンテナを設置していた。それが台風の時に、飛び回るのである。こんなのに当たったら死ぬと思った。今も屋上にパラボリアンテナはあるのだろうか。

## ■新入会者紹介（広谷光紗）

本年 6 月から 9 月までの入会者を報告いたします。

### ・新入会員紹介（入会順、敬称略）

遊佐謙太郎、山本幸男、吉村剛史、多田恵、稲葉元和 新入会の皆様、よろしくお祈りいたします。

## ■訃報 2 名

日台稲門会を陰で支えてくれた方がお二人、亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。

### ★齋藤征二さん（享年 84 才）

ニューズレターや会報に毎回寄稿いただいた台湾在住の齋藤征二さまが  
8 月 16 日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します



### 追悼の言葉

・任期終え帰国されたら、終わるのだらうな！と並の想像をしていました。しかし、そのまま台湾に残り、死ぬまで一緒されたのは双方共に立派！！と今や感じています。その間、舌がんの手術で声もままならず、大変な異国生活があったと推察されます。ささやかなお付き合いでしたが、その後の日台稲門会へのご協力にも感謝しつつ、合掌しております。(岩永康久)

・私は昨年の台湾校友会懇親会でご一緒して、帰りにタクシーでお送りしたのが最後になってしまいました。本当に残念です。(根本宏児)

・台湾駐在中に何度も林森北路、校友会などでご一緒しました。懐かしく思い出します。体調はあまり芳しくないことは伺っていましたが、こんな早くとは・心よりご冥福をお祈りします。合掌 お世話になった先輩が一人一人と亡くなって逝くのは何とも寂しい限りです。(萩原伸一)

・心よりご冥福をお祈りいたします。台湾そして台北稲門会に大きな足跡を残されての旅立ちであり、残念で仕方ありません。ご冥福をお祈りいたします (渡邊義典)

・過日台北稲門会懇親会（前夜祭）会場に向かう際、偶然齋藤さんにバッタリ 「小川さん一緒に入りましょう」と優しく仰ってくれた齋藤さんを今でも思い出します ご冥福をお祈りいたします (小川英郎)

・私は2022年早稲田大学での博士課程を始める直前の5月上旬に、台北稲子会の先輩方が送別会を開いてくださり、その席で齋藤征二先輩から多くの温かい励ましの言葉をいただきました。これらの言葉は、東京での生活を支える大きな力となりました。台北に戻ってから、また台北稲子会の先輩方と再会できることを心待ちにしておりました。しかし、残念ながら齋藤征二先輩がもうおられない……。2022年5月初めの別れが、私にとって齋藤征二先輩との永遠の別れになるとは、まさか思いもよりませんでした。「残念無念」という言葉の持つ無力さを深く痛感いたしました。しかし、齋藤征二先輩はきっと、私たちがその積極的な熱意とエネルギーを引き継ぎ、それぞれの場所や分野で自分の役割を果たし、そしてポジティブな力で早稲田大学母校に貢献し続けることを期待しておられると信じております。  
(Elisa 傳馨儀)

### ★黄文雄さん (享年 85 才)

元日台稲門会会員で、日台稲門会でも大隈会館で講演して下さった黄文雄さんが7月に亡くなりました。黄文雄事務所公式ホームページによれば、氏は「覇権主義を続ける中国をきびしく批判する一方で、台湾を近代化に導いた日本を高く評価し、日本の文化・文明に心酔、戦後の自虐史観を払拭する言論活動」を行ったとしている。また『二百冊にもおよぶベストセラーの印税は台湾独立運動に寄付した。』と。(台湾の声より) 謹んでご冥福をお祈り致します



### 追悼の言葉

・出版社勤めだった私は、黄文雄さんの数多ある著書のうち、一冊だけ編集を担当しました。レポート用紙に手書きでびっしり書かれた原稿を、最初の読者として読みながら、私自身がワープロでデータに起こしていったことが思い出されます。この仕事以外にも台湾にちなんだ会合などで何度もお会いしました。私の母の葬儀に花を贈っていただいたり、黄さん主宰のパーティーに招いてもらったりするなど、何かとお世話にもなりました。黄さん、いろいろありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします (梶山憲一)

・黄さんは、「台湾の声」編集長の林建良氏とも親しく、「日本李登輝友の会」の設立に尽力し、石川公弘さん(日台稲門会第3代会長)が会長をされている「台湾高座会(台湾少年工)」でも貢献されました。ご冥福をお祈りします(渡邊義典)

## ■ お知らせ

### ①2024年 秋季講演会のお知らせ

今年、当会定例の秋季講演会は、早稲田大学校友会の最大イベント「稲門祭」に団体参加するかたちで行います。オンライン配信も行います。

演題は「多言語社会台湾とその人びと」。日本と似ている面もある台湾。一方、中国語・台湾語・客家語・台湾「原住民」諸語と多言語で、日本とは大きく異なります。その社会を、英語、中国語、台湾語などの多言語話者で、台湾「原住民」のタイヤル語(アタヤル語とも)の研究者でもある言語学者・鈴木武生氏が語ります。恒例の「日台交流の集い」も、もちろん開きます。参加ご希望の方は、近くメールでお送りする「案内」にある申込フォームからお申し込みください。

◆問い合わせ先: office@nittai-toumonkai.com

### ◆秋季講演会の要領

日時: 10月20日(日) 15時00分~16時30分 ※開場: 14時30分~

講師: 鈴木武生氏

演題: 多言語社会台湾とその人びと

会場: 早稲田大学・早稲田キャンパス/7号館3階・307教室 会費: 無料(交流の集いは有料)

### ◆講師紹介

鈴木武生(すずき たけお) / (株)アジアユーロ言語研究所代表 / 早稲田大学法学部非常勤講師 / 東大院・言語情報専攻修了(言語学博士)

英語、中国語などを専門とし、台湾では、アタヤル語のフィールドワークを行う。

著書に『異文化理解で変わる ビジネス英会話・チャット 状況・場面 115』(Z会出版)など多数。



## ②Facebookグループ「日台稲門会」ご利用のお勧め



※グループURL: <https://www.facebook.com/groups/nittai.toumon>

左記QRコード

日台稲門会では、情報発信ツールとして下記「サイト」に加えて、幹事会有志を「管理人」とした「Webサロン」として、Facebookグループ「日台稲門会」を運用中です。

※ 日台稲門会関係者(会員・会友・OB・etc...)の交流を目的としておりますので、会員・会友の皆様によるご投稿をお待ちしています!

管理人代表 西本 誠

<https://www.facebook.com/makoto.nishimoto/>

記

公式HP <http://nittai-toumonkai.com/>

公式HP

FB ページ

FBページ <https://www.facebook.com/nittaitoumonkai/>



### 編集後記

昨年6月10日に大隈記念タワー(26号館)地下1階多目的ホールで総会と講演会があった。会場付近の女性トイレ入り口には「All genders」と表示がされていた。LGBT法案、国会可決の6日前だったため、早稲田は流行に敏感だなと思った。1年経った今年6月8日にまた同所で総会・講演会が開かれたが、女性トイレのAll genders看板は取り外されていた。All gendersなら男女共用ともとれるから当然だろう。パーティの後、1階のトイレを見たらAll gendersの表示だったが、一か所しかないから当然か。ただ使用不可の看板が掲げられていた。大学当局の苦悩がうかがえた。(H)